平成２７年１０月１日
一般財団法人自転車産業振興協会
本部　事業部
技術研究所　研究開発部

2015 年ユーロバイク展及び DEMO DAY2015 報告

（一財）自転車産業振興協会（自振協）は、日本の自転車関連産業の貿易促進のため、日本企業の国際自転車展示会への出展支援を行っており、2015 年ユーロバイク展に自振協による共同出展ブースを設け日本企業 8 社の出展を支援した。これに伴い、同展概要を報告する。

1. 2015 年ユーロバイク展

①展示会概要

本年、第 24 回目の自転車展ユーロバイク（EUROBIKE2015）は、ドイツ南端のフリードリッヒスハーフェン見本市会場にて、2015 年 8 月 26 日（水）～29 日（土）にわたり開催された。今年は晴天に恵まれ、会期中に最高気温が 30℃近くに達した。ビジネス関係の来場者数は前年より 430 名少ない 45,870 人となり、前年より僅かに減少した。しかしながら、出展社数は前年より 30 社多い 53 カ国･地域 1,350 社と更に増加した。会期中には 1,766 人（前年 1,852 人）の取材陣が訪れ、最終日の一般公開日は 20,730 人（前年 21,100 人）の一般来場者が詰めかけ、例年通り会場は多くの参加者の熱気に包まれていた。

会場の様子（左：ホール A6、右：ホール A4）

主催：　メッセ・フリードリッヒスハーフェン有限会社
開催地：　ドイツ・フリードリッヒスハーフェン見本市会場
会期：　2015 年 8 月 26 日（水）～29 日（土）　（8/26－28 ビジネスデー、8/29 一般公開）
展示会場及び面積：　14 ホール、100,000 ㎡（昨年同様　※A3,A4 仮設、屋外分は除く）
入場者数：　ビジネス来場者　103 カ国 45,870 人（昨年 111 カ国 46,300 人）
　　一般来場者　20,730 人（昨年 21,100 人）

出展社数　53 カ国・地域 1,350 社（昨年 54 カ国 1,320 社）

②鮮やかな色彩

最近の傾向として、サイクル用の衣料品類や低価格帯の MTB や BMX 等では、従来からネオンカラー(蛍光色)のカラーバリエーションが見られたが、その傾向は中～高価格帯にも波及しつつある。各ブランドのブースには鮮やかな蛍光色の新商品が展示され、展示会場は明るい色彩に包まれた。例えばスポーツ車では、艶消しの黒ベースのフレームに蛍光の青、橙、黄や緑等を取り入れたデザインの自転車が各所で増え、5,6 年前まで多く見られた白フレームに黒・青・赤等を取り入れた配色は減りつつある。各社が最新のトレンドを追って似通ったデザインや配色がますます多くなる中で、自社のイメージカラー確立し、それを貫き通すブランドは少なくなってきた。

また、昨年欧州ブランドにも広がりを見せたファットバイク(Fat bikes)は、本年も多くのブースで見られ、更にはファットバイクタイプの EPAC も昨年より多くなっていたが、ファットバイクが MTB のように一つの車種として今後も定着するのか、数年間は様子を見たい。

鮮やかな MTB（上左：コラテック、上右：ラピエール、下左：ベルガモント、下右：ジャイアント）

蛍光色の展示品が増加（上：ロードバイク、下：ウエア類）

ファットバイクは今年も健在

③注目が高まる E-MTB

本年、自転車(EPAC)及び電動自転車(E-bike)と関連部品への注目度は昨年以上に高まり、今やユーロバイク展の目玉である。同展オフィシャルカタログによると、2015 年展示会の EPAC 出展者数は 84 社と前年並みであるが､E-bike 出展は前年より 19 社多い 195 社と過去最高に達し､展示会場内の屋外の EPAC や電動車の試乗コーナーでは連日多くの人々で賑わっていた。EPAC の車種としては、スポーツ車タイプの EPAC が年々広がりを見せていたが、本年

は特にマウンテンバイクタイプの EPAC や E-Bike である E-MTB の新商品の展示が各ブースで更に増えており、欧州自転車市場で今、最も注目が高い車種となった。

図表 1: E-bike(電動自転車)、Pedelecs(電動アシスト自転車)出展者数の推移 (単位:社)

出展車種	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	**2015**
E-bikes	9	16	30	47	76	110	101	156	158	176	**195**
Pedelecs	5	4	15	23	30	52	55	88	82	83	**84**

※同カタログ上では電動アシスト自転車(EPAC)を Pedelecs と表記

電動アシス車等のドライブトユニットに関しては、現在、ボッシュ(BOSCH)が欧州市場で大きなシェアを占めている感が強い。ホール A6 には、BOSCH を筆頭に日系メーカーのパナソニックサイクルテック(Panasonic)、サンスター技研及び日本電産コパル、既存のユニットメーカーの TranX、BaionX 及び Ansmann 等及び Brose 等の新興メーカーまで、更には韓国のサムソンに加え本年は LG もバッテリー類の出展をする等、同ホールの一部は電動ユニットドライブ関連の専用コーナーのようであった。更にホール A1 ではシマノが「STEPS」を大々的に展示し、EPAC ブームに沸く欧州市場に積極的に挑む日本企業の姿が今年も見られた。現在はボッシュの台頭により、車体中央部にモーターを配置するタイプが優勢となっており、各社も中央型の電動ユニットを中心に据え、欧州におけるドライブユニットの熾烈なシェア争いは今も続いている。

E-MTB が増加(上左:スコット、上右:ハイバイク、下左:ベルガモント、下右:ロックマシン)

④JBPI 共同出展ブース

本年 13 回目の出展となる自転車産業振興協会(JBPI)ブースは、昨年よりアイランドブースの形態に戻り、昨年同様のブースの位置と面積(B2-405、60 ㎡)であった。今回は㈱スギノエンジニアリング(SUGINO)、㈱三ヶ島製作所(MKS)、㈱ヨシガイ(DIA-COMPE)、㈱本所工研(HONJO)、UCCO㈱(MULLER Japan)、㈱ハチスカ(Hachisuka)、㈱東部(TOBU) 及び二九精密機械工業㈱(FUTA-Q)の合計 8 社の日本企業が共同出展した。

JBPI ブースは来場者の往来が頻繁なホール内の中央の通りに面し、ペダル、ギヤクランク、ハンドルバー、ステム、ブレーキ、チューブ及び泥よけ等、日本の高品質な自転車部品等が集まる場所として既に知られている。更に本年は 3 社 (MULLER Japan、TOBU 及び FUTA-Q)が、ロードバイク等のスポーツ車、折りたたみ車及び小径車を展示した。因みに展示会誌のショーデイリーに計 4 社の新商品を紹介する記事が掲載される等、例年同様、当ブースの日本製品は来場者の注目を集め、各共同出展者の小間では活発な商談等も行われていた。

JBPI 共同出展ブース（左；ブース全景、右；Hachisuka）

JBPI 共同出展ブース（左；FUTA-Q 出展物、右；MULLERE Japan）

図表 2：2015 年ユーロバイク展共同出展企業一覧

出展社名 （英文名）	住　　所 ＵＲＬ	電話 ＦＡＸ	主な出品物
㈱三ヶ島製作所 MKS	〒359-1166 所沢市糀谷 1738 http://www.mkspedal.com	04-2948-1261 04-2948-1265	ペダル
㈱スギノエンジニアリング SUGINO	〒630-8144 奈良市東九条町 287-1 http://www.suginoltd.co.jp	0742-62-5311 0742-62-5320	チェーンリング、クランク等
㈱ヨシガイ DIA-COMPE	〒571-0008 門真市東江端町 7-25 http://www.diacompe.co.jp	072-884-8020 072-884-8030	ヘッドセット、ブレーキ等
㈱本所工研 HONJO	〒130-0003 東京都墨田区横川 2-19-10	03-3625-2431 03-3625-2433	泥よけ
UCCO㈱ MULLER Japan	〒511-0009 桑名市桑名北浜町 628-5 http://www.mullerjapan.com	0594-27-3196 0594-27-1444	ロードバイク、フレーム
㈱ハチスカ HACHISUKA	〒444-2111 岡崎市西阿知和町御用田 1-1 http://www.hachisuka.co.jp	0564-45-7171 0564-45-6262	パンクしないチューブ
㈱東部 TOBU	〒486-0957 春日井市中野町 2-2-3 http://www.aero-tobu.com	0586-32-1725 0568-35-0061	折りたたみ車、幼児車
二九精密機械工業㈱ FUTA-Q	〒601-8454 京都市南区唐橋経田町 33-3 http://samuraibike.jp	075-661-2931 075-661-2937	自転車、フレーム

⑤新たな試み

本年はドイツの大手スポーツ車ブランドのフェルト(FELT)が出展を取りやめた。しかし、その他では大きな動きは見られず、同展への影響は限定的と思われる。来場者の減少も極僅かに止まり、むしろ減少の数値を正直に公表した主催者の態度を評価したい。また、新たに仮設トイレを増設する等、参加者の利便性を高める努力の跡も見られた。出展者数は前年より増加したが、見本市会場の設備上、現在の展示面積は限界に近く、このまま増加を続けることは難しいと思われる。いまだに多くの参加希望者が出展の場を求め待機中ともいわれ、依然として同展の人気の高さと欧州市場で重要視されていることが伺える。

屋外の EPAC 試乗コーナー

展示会主催者は来年の会期の見直しを行い、ビジネスデー3 日と一般公開日 1 日の計 4 日から、来年は一般公開日を 1 日増やし、会期を 5 日間とすることを本年の終了後に発表した。ビジネス客を対象とした展示会前日のイベントの DEMODAY は EUROBIKE 期間中に取り込み、その開催期間をビジネスデー3 日と土曜の一般公開日の計 4 日間とする予定である。現在も試乗コーナーは人々であふれるほど盛況であるが、一般消費者にも新商品を訴求するため、試乗イベントの充実を図ることとなった。これは現在の EPAC ブームの流れを踏まえた消費者重視の判断と思われる。なお、本年 7 月上旬にメディア向けの新商品発表の場として「EUROBIKE Media Days」を初開催したが、広報の役割はこちらへ移行させるものとみられる。

因みに、1990 年代まで長らく欧州自転車市場の中心的役割を果たした二大展示会、ケルン展(IFMA)とミラノ展(EICMA)はオートバイと自転車合同の大規模二輪車展示として、会期は一般公開も含め一週間近くに及んだ。その後、ビジネスに特化した短期の自転車専門展が望まれ、両展は徐々に勢いを失い、入れ替わるように EUROBIKE の繁栄につながった。この 1 日延長の判断は、参加機会の増える消費者やブームに沸く欧州 EPAC メーカー等は歓迎するかもしれない。しかし、出展者の負担の増減は不透明であり、この新たな試みが多くの出展者に受け入れられ 5 日会期が定着するのか、まずは来年の成否を見たい。

次回 EUROBIKE2016 は 2016 年 8 月 31 日(水)～9 月 4 日(日)の 5 日間の開催予定である。

2. DEMO DAY2015

ユーロバイク展示会の前日の 8 月 25 日(火)に第 9 回目のデモデー(DEMODAY)が開催された。DEMODAY は各メーカーによる新モデル試乗会である。会場は昨年から見本市会場の東入口の駐車場の一角での開催となった。来場者は、会場東入口で入場券を購入し、試乗を希望する場合は自己責任である旨の誓約書に署名し腕にリストバンドを巻いてから、展示会場の隣の DEMODAY 会場に入場する。なお、出展社パスを持っていれば入場可能である。

DEMODAY 会場内風景

出展社数は 172 社(前年 147 社)となり前回より増加した。会場内は完成車メーカー、部品メーカーのブースが並び、大手完成車メーカーは、ロードバイク、MTB、EPAC 等を出展していた。EPAC ではシティ車タイプの他、電動車及び E-MTB も出展し、三輪車、リカンベント及

びファットバイクなどにも電動ユニットが装着されていた。完成車の主な出展メーカーはキャノンデール、スコット、メリダ、ルック、ピナレロ、ビアンキで、部品の主な出展メーカーはスラム、カンパニョーロ、シマノ及びマグラ等であった。

催事当日は好天に恵まれ来場者数は 2731 人となり、昨年の 2642 人を超え過去最高となった。また、取材陣は 34 か国から 788 人が現地を訪れ、活発な取材活動が行われていた。

試乗する来場者

試乗コースは､舗装路と未舗装路を合わせて全長 4.4 km､7 km､3 kmの 3 つのコースがあり、また、MTB 専用の試乗エリアも設けられた。試乗の際は、試乗したい自転車のブースで申し出れば借りることができる。この際、身分証明書を提示し誓約書への署名が求められる。ブースでパスポートを預け、出展者から試乗車のブレーキの配置など操作方法の説明を聞き、来場者の体形に合わせてサドル高さを調整した後、試乗を行った。

来場者の多くは試乗が目的であるため、ヘルメットを持参していた。ヘルメットのない来場者に対しては貸し出しを行っていた。今回、実際に電動アシスト自転車を借りてコースを試乗したが、当日は、晴天に恵まれ気温が 30℃近くまで上昇する中、一部では警察により交通規制が行われ、一般路や林道を軽快に走行することができた。

試乗コース

MTB 専用試乗エリア

以　上

※写真はすべて筆者撮影（同展取材登録済）